

あすなろ福祉会各施設職員・関係者の皆さん、新年おめでとうございます

気候変動や物価高、社会保障費の切り下げと防衛力増強などなど、あまり明るい話題がみえづらい新年の幕開けとなりました。そうした状況下だからこそ、私たちの果たさなければならない役割は一層重要となってきたと思っています。今年も役員、職員一体となって頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

清水あすなろ福祉会 理事長 杉井則夫



風の子 保育園

私たちは、保育の中で『子どもにとって』に立ち戻り、保育を考えています。「保育園が楽しい！」「保育園に行きたい！」と子どもたちにとって、保育園が楽しい場所であり、安心できる場所でありたいと思います。保育理念である『子どもひとり一人の育ちを大切にしよう』に基づき、『子ども・保護者・職員にとって』に立ち戻ることを大切に、2026年も皆で保育を創っていきたいと思います。

途中入園での園児が増加！

対応のため、保育士体制・保育環境づくりを進めています

風の子保育園の定員は120名です。現在、125名の子どもたちが通園しています。ここ数年、定員割れしていましたが今年度は、0歳児をはじめ各歳児の年度途中での入園が増え、定員を超える園児数となりました。

その要因として、保護者の満1歳からの仕事復帰、高部地区へ転居があげられます。途中入園、定員増の子どもの受け入れをするためには、保育士体制、保育環境が整っていること、園全体の子どもたちが落ち着いていること

は大前提となります。風の子では、

8月と12月に職員体制を増やしました。保育環境においては、0、

1歳児の連携の中、室内環境や日課を見直し子どもたちが安心して生活できる環境を創っています。少子化、定員割れ・・・と言われる時代ですが、入園を希望される保護者がいる限り、年度途中でも柔軟な受け入れができるよう考えていきたいと思っています。



明けましておめでとうございます。
昨年中は大変お世話になり心より
お礼申し上げます。



さて、あすなろの家ですが、昨年12月6日に新規事業の「久遠チョコレート」をオープンいたしました。レジ・接客・在庫管理・発注…まだ不慣れな場面が多いですが、それでも職員が笑顔で頑張っている姿がとてもうれしいです。社会的課題への取り組みとして頑張りたいと思いますので、応援お願いいたします。

介護人材不足への対応 …外国人人材の受け入れも計画

令和8年度、あすなろの家では外国人介護人材の受け入れを計画しております。あすなろの家でも、介護人材の確保は困難を極めてきましたが、各部署（7事業）の、人と業務の連携を進め、新しい働き方を作りだし、横の繋がりで施設の一体感を強め、人材派遣に頼らずなんとか乗り切ってきた経緯があります。

令和3年に新たな職種としてライフサポートメイト（通称メイトさん）を始めました。その仕事は、今まで介護職が業務として行ってきた、お茶準備・食事配膳/下膳・洗濯全般・シーツ交換・掃除…などをメイトさんが担当します。これにより、介護職員がお年寄りと関わる時間を増やすことができたこと、そして社会の中で生きにくさを感じている方や高齢者と呼ばれる方々が活躍する場所、必要とされる場所に繋げることができたのではと思っています。

今後の社会を見ても、労働人口の減少から、特に介護分野での人手不足は避けられません。もうすでに、多くの施設で外国人介護職員が雇用されている現状があります。今まで職員たちが苦勞して築いてきたあすなろの職場風土であれば、働く仲間が外国人であっても比較的うまく受け入れが可能だと思っています。新しいことにチャレンジするということは、私たち自身が変わっていくこと

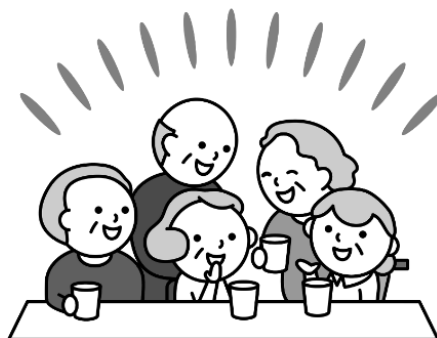
と、そしてまた新しい発見や気づきに出会えるということだと思っています。

果たして、令和8年はどんな年になるのでしょうか？

笑顔で元気に頑張りますので、
応援よろしくお願いいたします。



活躍中のメイトさん



高齢化社会の中で…障害者の高齢化も

初めて障害のある人と関わったのは今から42年前。大きな施設だったので広いグラウンドがあって、50代後半の利用者さんたちが手を後ろで組んで、毎日のんびり散歩していました。私の目にはいかにも高齢者でした。ダウン症の人は20歳を迎えられない、重い障害のある子供の将来を悲観して、親が我が子を殺す事件には、犯罪者である親に減刑を求める運動が起こった時代でした。時代が巡って、人生100年時代。障害のある仲間たちも80歳、90歳を迎えています。当時と変化のないことは、「障害のある我が子を残して死ねない」という親の切実な思いと、「安心して任せられる環境がない」ということ。信頼できる場所や人、その基盤となる社会制度が脆弱なのか、バランスが悪いのか…。

グループホームでは支援内容が拡大

ともの家には現在50歳代の仲間が7名います。そのうち6名がホームに入居。親の年齢は想像がつくと思いますし、すでに介護保険制度を利用している方もいます。出会った当時の親の年齢は50歳、子ども達も20代半ばでしたから、自然の摂理とはわかっていても、残念でなりません。

グループホームの役割は本来「親から自立した地域での暮らしの場」でしたが、現状では、子どもの面倒を見られなくなった時の暮らしの場になっていますし、出来る範囲での親の協力無くして運営できません。これは人手不足の問題が大きく、昨年4月にホーム1か所の閉鎖に至った経緯に繋がります。

ホームでの暮らしは、生活そのものです。日中通所の場所とは違う種類の意思決定を前提に「安心」の保障を行っています。ホーム全体の清掃、個人の部屋の清潔、食事のバランスと美味しい食事とその雰囲気、毎日の入浴、通院援助や、美容室支援等など、細部にわたります。仲間たちが元々持っている障害が高齢化により重度化すれば、支援の内容もより大きくなり、人手が必要になるなど、その都度、遅番勤務や入浴対応職員を雇用し、策を練って対応しています。50人、100人が共同で生活する入所施設より、はるかに家庭的で、私たちの暮らし方に近いはず。多少の不便に目を瞑っても、“ここは居心地いい”と思って暮らしてほしい。それが願いです。グループホームっていつまでいられるの？そんな質問を投げかけられることがあります。高齢になった仲間が生活できる場所が他に見つければ…、今はそう応えています。

お客様にホッとしていただけのお店と商品をおとどけしたい

パンと焼き菓子の店 tomo マルシェ開催のお知らせ

パンと焼き菓子の店 tomo は、今月10周年を迎えます。10年間の感謝の気持ちをお伝えしたく、マルシェを開催します。当日は出店者の販売に加え、豚汁のふるまいも用意し、ほっとした時間を過ごして頂ければと思っています。ぜひお立ち寄りください。

♡日時 2026年1月24日(土) 10:00~14:00

♡場所 tomo 店舗前・パブリカ

♡出店者による販売(おやき、ポップコーン、コーヒー、オムライス、新鮮野菜、唐揚げ、色鉛筆の絵描き等)、竹プランター販売(ともの家)、豚汁のふるまい



※駐車場は15台分用意してあります。

2026年、国民生活はようになる？

理事長 杉井則夫



0%⇒10%、0円⇒25兆円 52%⇒29.7%、19兆円⇒17.9兆円。これは1988年と2024年の消費税率と税額、法人税率と法人税額の比較です、この期間の消費税総額は国税のみで400兆円、対して、資本金10億円以上の企業の内部留保は100兆円だったものが539兆円となっています。消費税額がそのまま大企業の内部留保に置き換わった計算です。

この間、賃金上昇は抑えられ、非正規雇用が増えました。高市内閣が年末に決定した巨額の補正予算では、戦略的財政出動として14兆円の新規国債発行を計画し、その結果、長期金利の上昇や円安の進行など、物価対策どころか物価を一層押し上げる政策を実行しようとしています。そして、企業が好業績をあげれば、相対的に労働者の賃金も上がると、破綻しているトリクルダウン説を唱え経済界への支援を厚くしますが、実態は逆で、貧しいものから富める者へお金が逆流しています。

医療ではすでに2割負担が実施されていますが、介護保険の負担割合にも、3割負担が実施されています。現在、社会保険料の国民負担が年齢基準から、支払い能力に応じた全世代型への検討が進められています。高収入の者が高負担と言えは聞こえは良いですが、制度がスタートすれば、収入基準がどんどん下げられて、低所得者の負担割合がどんどん増えていくのは、これまでの経験でも明らかです。軍事費までもが赤字国債を原資とするようになって、今後の国民生活はどうか？新年早々明るい話にはなりそうもありません。

危機管理委員会活動報告

働く人の個人の尊厳が守られる職場環境づくりを目指した、ハラスメントは許しません！！対策が各事業所に義務づけられて、まもなく3年になります。セクハラ・パワハラ・モラハラ等と多岐に分類されますが、表に出せず相談もしにくい人のために、各施設は「ポスト」を設置、投函の内容次第では各施設だけでは解決できない相談を予測し、理事会は独自の「運用細則」を定めて2年が経ちます。

この2年で「運用細則」に係る検証事案は0件でした。この結果は、各施設の日常が風通し良く運営されている証と評価しています。ハラスメントは行為者と受け手の微妙な認識の違いで是非が分かれます、当委員会では、次年度にハラスメントに関する認識の共有を目指した「職員研修会」を考えています。

評議員・役員懇談会を開催

11月11日(土)評議員、理事による懇談会が開催され、各施設の活動について報告や、理事長から福祉の現状についての報告が行われました。

参加された役員の皆様から、各立場における福祉の現状や課題などについてご意見や情報をうかがう機会となりました。

